

こうち、(再)新発見！

TOSABUSHI

【第2号】

二〇一三年

目次

特集  
メタルの星

とさ印 「Paper message」のペーパーアイテム  
せがれ 西村啓(西村贋写堂)

ほろ酔い対談 西村啓×宇賀兄勉

高知探訪 お城の動物園

生き物がたり ニホンミツバチ

戦国元親くん 姫若子と長浜合戦

でんづきでんづき とさぶし写真館

アゲアゲ天国 灘のたこ焼

暮らしおこだわり ピザ釜

とさぶしお知らせコーナー

暮らしのこだわり ピザ釜

Oh縁メッセージ 梅垣義明・大久保ノブオ

TOSABUSHI  
とさぶし 第2号  
2013年

はみだし企画満載！web限定コンテンツ

web版“あだたん”  
<http://tosabushi.com>

電子書籍でも  
見ることができます！

iPhone、iPad、  
Android対応！

 facebookもやってます！  
<http://www.facebook.com/tosabushi>

発行  
高知県 文化生活部 文化・国際課

〒780-8570 高知市丸ノ内1丁目2番20号(本庁舎5階)

Tel 088-823-9793 Fax 088-823-9296

E-mail 140201@ken.pref.kochi.lg.jp

発行日：2013年3月24日(季刊)

企画 とさぶし編集委員会

制作 南の風社



宵の明星が姿をあらわすと  
景色が一変しはじめ  
無数の星が空一面に輝きだす

# ×タルの星

高知は農業・林業・漁業が盛んで、石灰や打ち刃物、造船など関連する産業が栄えてきた。時代の変化とともに姿を変えている製造業だが、今も町工場で金属に向き合い、希望を持ち、ものづくりに情熱を注ぐ若者たちがいる。



## 鉄においてに導かれ



溶接をする前に、図面を見て、鉄の材料を組み立て、形づくる。そして曲がったり縮んだりすることを予測して仮止めする。「図面どおりにバシッと決まるうれしいねえ」。

土木建築現場で活躍する杭打ち機やクレーンなどの重要な部分を請け負う第十さん。「クレーンが倒れたというニュースを聞くと、うちの部品が使われてないかとヒヤつとする」と言う。金属加工の分野は、建設機械に限らず、船、車、橋など、“人の命”にかかるものが多く、小さなミスも許されない。なおかつ、作業中に自らがケガをする危険にもさらされている。そうしたリスクを背負いながら、ジェットコースターやメリーゴーランドなど世界の遊具や舞台装置の駆動部をつくり、人々に楽しさを提供している人がいる。

第十忍さん(36)は、小さい頃、(株)垣内に勤める父について鉄工所に行くのが好きだった。鉄と火にまみれて働く人が輝いて見えた。小学校に上がる前、祖父にもらったラジカセを分解した。なんで音が鳴るのか、その構造を目で見て確かめたい。「車でもラジコンでも、鉄を使うやうさんにすごい興味があった。仕組みがうんと気になるんよ」。分解しては組み立ての繰り返しをするうちに、「もの」をつくる魅力に取り憑かれた。夜間高校に通いながら鉄工所に勤務し、28歳で起業した。



鉄一筋20年の第十忍さんは(株)第十工業の代表。溶接は強さ、美しさ、スピードとも「ポルシェ並み」。



吉良智沙さんは、3児のママ。スタッフ同士で子どもの話をすることが多い。

強く、精微なものは、  
美しい



仕事は集中して、休み時間は和氣あいあい。



吉良智沙さん(31)。  
「最初は創業した兄を  
バイト感覚で手伝いは  
じめたけど、抜けれん  
なった」。第十工業の  
事務をしながら、溶接  
後に部品を磨く「ケレン」という仕上げ  
工程を担う。

飛び散った小さな金属の粒をヘラで  
取り除き、余分な溶接部をグライン  
ダーで研磨する。微妙な歪みを修正し、  
最終製品に仕上げる重要な工程を、  
全て手作業で行う。初めは、鉄を削る



なめらかな継ぎ目に磨きをかけて、完成！

どんなに大きなスカイツリーも一つの部品から始まる。いくつもの工程を経て、組み立てていくと、目指していくものが眼前に姿を現す。

自分たちの手でつくりだしたもののが、人々の暮らしに役立っていく。そんな、ものづくりに魅了された若者たち。今も、自ら光を放つ新しい星が生まれている。

時に出る火花が怖かったが、今では顔に散っても平気。いかに早く、美しく仕上げるのかが、腕の見せどころだ。最終検査に来た取引先の人が完璧な仕上がりに驚きの声をあげた時、静かにガッツポーズした。「見た目にこだわる方なんで」。ケレンは趣味のお菓子づくりと共通する、と微笑む。

「いつか高知にスカイツリーでも作りたいねえ」と隣で兄が言う。仲間の力を結集して、みんなをあつと驚かせたい。

## 困難なものほど、 わくわくする

「図面を見たら、普通は怖くて断るでしょうね」。  
**(有)クリエイト・テーマ工場長  
の徳島弘晃さん(38)。2011年4月にこけら落としされる東京銀座の新歌舞伎座。直径18m、高さ16mの国内最大の廻り舞台の駆動部を請け負った。**

717本のピンを78.5mm間隔で正確に溶接するという難しい仕事だった。駆動部のギアは精度が高くないと滑らかに回転しない。直径18mの舞台を一周まわして、誤差が±2.5mm。極限まで狂いを許さない。



駆動部の高さは5階建てビルに相当する。

「歴史的な建造物をつくったというのは、自慢であり、自信になっていましたね」。そんな誇りをこめて、国内外を問わず全ての製品にMade in Japanを焼き付ける。

プラモデルの全盛期だった小学生時代。ガンダムや宇宙戦艦ヤマトなど、プラモデルにめり込んだ。せっかくきれいに組み立てたのに、色を塗る時に失敗するという苦い思い出もある。「笑われるかもしだれんけど、自家発電機とか発明してみたい。一つの電球の光を反射させて、小さなエネルギーを大きくさせるようなん……」。

仕事を終えて、家に帰つてビールを飲むと、アイデアが湧きあがってくる。



徳島弘晃さんは若手社員を引き上げる役割も持つ。「自ら記録更新できる人間に育ってほしい」。



徳島さんがうろこ一枚一枚を溶接してつくった「ステンレスの焼き魚」。

# と 々 印

その式  
じるし

「Paper Message」の  
ペーパーアイテム



愛用者  
国元 佐恵さん  
(20)

かわいいが  
いっぱい



食パンの形のカードが  
サンドイッチおじさんに変身！

最近はスペインの画家・ダリの影響もあってか、「かわいい」だけでは物足りない。くすっと笑ってもらえる、シュールさをプラスしたイラストに変化してきました。

手触りのいい紙質、くすみのある色、シンプルな柄のものをよく選びます。そうした素材を組み合わせたりして、わたしだけのオリジナルをつくる。プレゼントにして、喜んでもらえるのがまた嬉しいんです。

高校生の頃、偶然見つけた帶屋町の紙のお店。わたしの好きなものが集まっている！と、ただただ胸がドキドキしました。

レターセット、ポストカード、ラッピングペーパー……贈りたくなる、かわいい紙雑貨があふれていて、見るだけでも楽しい。高知で活躍している作家さんによるオリジナル商品も魅力的です。アイデアを見つけたり、創作のモチベーションがアップしたりする、わたしにとってなくてはならない場所。友達を誘ったりして、週に2、3回は通っています。

# 「刷る」から 「仕掛ける」へ

T  
せがれ  
vol.02

紙に残し、紙で伝える——印刷はそれを支えてきた。「謄写印刷」がまだ残る時代に創業した西村謄写堂。スピード化、デジタル化が求められる業界において、西村啓は、その社名とともに、手仕事にこだわり、キャラクター市場を開拓している。

西村 啓さん  
あきら  
西村謄写堂専務



龍馬の生まれた町として知られる

高知市上町。古い町並みに原色で描かれたキャラクターの旗が揺れる。観

光客がふらっと事務所に入り、一筆箋やお守りを手に取り、買っていく。

ワンピースやドラえもんなど、おなじみのキャラクターの文房具やお菓子を

製造し、人気の漫画家や声優と手を組んでラジオドラマをも仕掛ける西村啓。創業76年、80人の社員を抱える印刷会社の二代目だ。

15歳の時、どくれた。きっかけは、高校受験だった。好きな女の子と同じ私立高校に通いたい一心で猛勉強し、成績はうなぎ昇り。両親もびっくりして期待した。試験直前、不安が募り、プレッシャーに負けた。ショックを受けとめられず、親父のせいにした。

公立の進学高に進んだが、学校に行かない、勉強もしない。突然、自転車で室戸岬に行ったり、家出して図書館の駐車場で寝泊まりしたり。3年間、親父とは一言も口をきかなかった。

「すっごい心が重いわけ。そしたらなぜかツトワークが軽くなるがよ」。卒業してすぐ建設作業員になった。お金が貯まると、インド

やバンガラデシュを放浪した。帰国して東京で住み込みの仕事をしていた時、父が倒れた。しぶしぶ高知に戻り、少しづつ家業を手伝いはじめた。まだ20歳だった。営業になり、県内外を渡り歩く日々。しかし、まだどこか甘えがあった。

転機は32歳の時に訪れた。300部のカタログからスタートしたお客様が、介護需要の高まりとネットブームに乗って急成長。年間30万部を超えた。

会社史上最高の規模となつた。父である社長が先導し、社員を増やし、設備も増やした。受注総額が2億円を超えていたまさにその時、県外大手にもつていただけた。

「20人辞めてもらわんと、会社が潰れる」。借錢しても社員を辞めさせたくない社長と常務を前に、初めて自分の意見を主張した。この時から、社員に「鬼」と言われるほど厳しくなつた。「大手とは無縁の世界に行こう」。一つの決意が生まれた。

会社の窮地を経験し



た一年半後、エヴァンゲリオンの劇中のセリフを使ったラーメンが生まれた。アイデアをぶつけた東京の映画製作会社から発注があり、長年付き合いのある製麺会社から協力を得た。これを契機に、印刷物ではなく商品をつくり納めるようになった。それができたのは、会社が築きあげてきた強みがあつたからだ。

30年前に遡る。マンガの同人誌はま



自社企画「偉人イケメンプロジェクト」のかレー。必ず食品製造工場に足を運び、品質と味を確かめる。

だ社会的に認知されていなかつたが、たまたま印刷を持ち込んだ作家の要望に丁寧に応えたことが評判になり、県外からどんどん原稿が持ち込まれるようになつた。同人誌には印刷所の名前を刷り込む慣例があつたので、全国のマンガやアニメファンに「西村謄写堂」の名前が浸透していく。高知市神田の市道。車も人通りも増えた夕方、ふいに渋滞が起こる。11



パッケージの組み立てや箱詰め、縫製など細かい手作業が得意技。内職のおばちゃんはおよそ100人。



出荷の時間になると、営業、制作、事務など各部署の社員が集まつてくる。トラックの中には何種類もの商品が詰まっている。



THE・手仕事。アナログな仕事は、経験を積むほど力を発揮できる。



トントラックが5mほどの道幅ぎりぎりに車体を回して、事業所の前につけた。10m近いトラックの側面が開き、社員が400個ほどの段ボールを運んでいく。

「新しい市場開拓が目的やない。僕の目標すのは社員100人。この規模にしてつぶれんために、成長する柱を探し続けていくだけよ」。自身を次郎長一家の親分に重ねる。印刷屋といふ「家業」をけん引する若きリーダーは、アナログな技にこだわり、面倒くさくて他がやらないことを、あえてやる。それは、印刷の領域を超えた新しいものづくりにつながっていく。根気のいる地味な作業だが、細やかな手仕事が活かされ、おばちゃんたちに笑顔があふれる。

## 衝撃の出会い

——なまこちようだい。

**西村** はじめて来たのは10年ばかり前。はりまや橋近くの魚の棚商店街にあるカウンターだけの店。人に連れて行つてもううて、こてんぱんに言われたがよね。

**宇賀** ヨシヤツは僕の意地の表れやつたんよ。社長の息子なのに、会社に入つてもなんにもできません。冬でも背広もコートも着んで、自転車こいでがんばるのが、唯一自分を認められることやつたが。その信念に対し「おまえアホか」とて言われた。

**西村** 雪が舞いゆつたね。ヨシヤツ一枚で店に入ってきた。「おれ、暑がりやき」って言うけど、社会常識がないわね。

**宇賀** 場所によつてマナーが違うでしょ。料理屋でもファーストフードでもホテルでも……。

**西村** そんなルール知らんかったんよ。飲み食いに来たら当然「自分の席」になると思つた。けど宇賀さんが、がいなこと言うが。金は払うても、所詮人様の土俵やつた。

**宇賀** うれしいことは聞きましよう。でも悩みは聞かない。それが僕の仕事のマナーなんよ。当時のけいちゃんは、後継者になる構えもないし、実績もないし、迷つていて。でも最近は、背広を着るようになつた……。

## 商品は育てるもの

高知市中心部を流れる鏡川のほど近く、街の外れの路地にぼやつと店の灯がともる。街のれんをぐぐり、木戸を開けると、左に小さい座敷、右にカウンターがのびる。「宇賀さん、桂月入れて」。湯呑ほどの酒器になみなみと土佐酒が注がれる。



# 宇賀兄勉

X Nishimura Akira



これがあ  
ればあ  
やしへられても  
やしへら  
うがは  
來ゆうがは  
僕だけよ。

もう立場は  
逆転  
しちゃづね。

**西村** 印刷の機械は自主的には動かんきね。  
**宇賀** 僕はの両手だけで商売する。ベースは人間やき、限界がある。

**西村** その限界に魅力があるがよ。点の強さやね。  
**宇賀** 僕のおばあさんはかまぼこ屋で、料理が上手で、200人前の皿鉢もつくれる。それが僕の原形なんよ。新鮮なものを見て、食べて、素地がでてきた。今でも毎朝、産直を歩いて目で確かめて新鮮な材料を仕入れて、メニューを書いて、お出しゅう。

**西村** 未経験のものが1割2割あるつて大事やね。それに挑戦してこそ、全体が豊かになるがよね。

**西村** はじめて来たのは10年ばかり前。はりまや橋近くの魚の棚商店街にあるカウンターだけの店。人に連れて行つてもううて、こてんぱんに言われたがよね。

**宇賀** 雪が舞いゆつたね。ヨシヤツ一枚で店に入ってきた。「おれ、暑がりやき」って言うけど、社会常識がないわね。

**西村** ヨシヤツは僕の意地の表れやつたんよ。社長の息子なのに、会社に入つてもなんにもできません。冬でも背広もコートも着んで、自転車こいでがんばるのが、唯一自分を認められることやつたが。その信念に対し「おまえアホか」とて言われた。

**宇賀** 場所によつてマナーが違うでしょ。料理屋でもファーストフードでもホテルでも……。

**西村** そんなルール知らんかったんよ。飲み食いに来たら当然「自分の席」になると思つた。けど宇賀さんは、後継者になる構えもないし、実績もないし、迷つていて。でも最近は、背広を着るようになつた……。

**宇賀** うれしいことは聞きましよう。でも悩みは聞かない。それが僕の仕事のマナーなんよ。当時のけいちゃんは、後継者になる構えもないし、実績もないし、迷つていて。でも最近は、背広を着るようになつた……。

**西村** おまえアホかって言つた的時候  
しゃべって時候

# お城の動物園



動物も檻も建物も遊具もなにもかもなくなってしまった動物園。とかく、その狭さとも相まって、たぶん誰もそこに動物園があったなんて思わないだろう場所。

動物園撤去後におこなわれた、高知城の遺構調査の結果を紹介する看板が設置されている。看板に並んだ文章を読むと、ここが江戸時代にお城の「御台所屋敷」だったことはよくわかる。だが、かつてここに40余年にわたって小さな動物園があつたことについては、そこには二行も書かれていない。

開放とした広場の真ん中に本のセンダンの樹が立っている。猿の檻と水鳥の檻との間に挟まれるように立っていたセンダンの樹。

動物園の唯一の名残りであるセンダンのわきに立ってみる。かつて猿の鳴き声を聞き、水鳥たちが餌をいばむのを見つめていたはずのそのセンダンの樹の面は、雨にぬれてひんやりサラサラしていた。

## ニホンミツバチ

ミツバチ科



生き物  
がたり

「あれって、なにか祀っているのかな？」

祠にも見える四角い形のものを特に

山間部の道路沿いで見かけるが、ミツバ

チを飼う箱だとなかなか直感が働くかな

い。小学生の時から父親とオオスズメバ

チを追い、高校にかけてニホンミツバチ

を育てた経験を持つ福田安武さん（25）

は、出身の愛知県では見なかつたし、

数多くあるのは高知独特と言う。「豊

かな自然とのかかわりの中で、暮らし

の一部として自家採取している人が多

いのでは」と推理する。

安芸郡田野町から室戸市にかけて250個近く据えている田所久幸さん（63）は、退職した6年前からはじめた。自然が

よい日陰がある、風通しはいいが強風は

防げる、上も下も崖といったニホンミ

ツバチが好む所を選んで置く。次に

巣になる箱。約30×30×高さ50センチのものを、2センチの厚さのスギ材で作る。箱の中には、蜜が残ったハチの巣を置く。経験的に、古い箱ほど入るし、一度入った箱にはよく入る。いろいろ手を尽くした末に入れる確率は3割くらいなので、入った時には「よう入ってくれた」と今でも感動すると言う。

春に巣を作った箱は秋に採れる人もいるが、田所さんはその場で1年以上寝かせる。長く置けばリスクが高まる。スマシンと剛さんは「口を揃えた。

古来からいたニホンミツバチは、自然そのもの。採る蜜も極力人の手を入れないよう、と心がける。採るのは1日1箱。8～10列に作られた巣を取り出し、絞ることはせずザルに載せ、垂らして採る。箱の中で糖度が78%まで上がったものの、箱の下ほど花粉やハチの子など不純物が多いので箱の上の10～15センチのものだけを「蜂蜜」として採り、日曜市で販売している。

ハチが集めた毒花の蜜さえ閉じ込めたまま、発酵の過程をハチに委ねると、花蜜は人が食べられる蜂蜜となる。ただ頂くだけのニホンミツバチの蜜は、単に糖度が高い甘さではなく、「濃密で、言葉にしづらい美味しさ」と、安武さ

### FATE 高知市立動物園

参考文献・写真出典：「高知市立動物園からわんぱーくこうちアニマルランドへあゆみ」／「月刊土佐 第31号」

#### 象に見る、お城の動物園の歴史

昭和27年 南海子（なみこ）が来園。

昭和46年 南海子が死亡。

昭和51年 象を連れてくる運動が実り、ターコ（メス）が来園。

\*南海子が来園した昭和27年とターコが来園した昭和51年は、年間8万人程度だった入場者数が倍以上に急増した。





なんちやじや  
ないけど、一  
クセになる

“どさぶし写真館”

02

# でんづき でんづき

vol.

高知市桂浜で行われた、  
映画「県庁おもてなし課」の空撮ロケにて。  
朝8時に集合し、ヘリコプターのカメラに向かって手を振るエキストラの方々。

写真・文 織田庸三 2012年10月20日撮影



©Yozo Oda

# 灘の アゲアゲ天国 たこ焼 vol.2



掛川たこ焼店 掛川 信孝さん  
「買いにくるがは、地元の人、お遍路さん。  
サーファーはソースもんが好きやねえ」

海に突き出た小さな半島、黒潮町・ド洋、南アフリカ沖、南オーストラ灘。国道56号線沿いの店。お品書きは10個250円と15個350円の2つだけ。「どう? 今日の波は」。なじみのサークーから電話がかかってきた。おんちゃんは、たこ焼を転がしていた手を止め、店の前に出る。海を眺めて、空や風の様子など気象を教える。

おんちゃんは灘で生まれた。父親も漁師だが、もっと広い海にあこがれ、中学を出て海技士免許を取り、20歳でマグロ漁船に乗った。はじめ炊事係として、70人近い船員の食事を作っていたが、船乗りの経験を積み航海士になつた。GPSのない時代、太陽や星を頼りに船の位置を導き出した。26歳で船長になり、イン

結婚して陸の仕事に切り替えた頃、実家の近くの国道沿いで、母がたこ焼店を開いた。大阪からたこ焼器をもらったのがきっかけだった。はじめ休みの日に手伝う程度だったが、しだいに店に立つ日が増えていつ

「おかあの味を変えるなよ」となじみの客が言う。店に立つて37年、ずっと味は変えていない。ソースは、ブレンドしているが、それ以外は企業秘

密らしい。「うかうかしとれんき、いんいん」とおんちゃんが笑う。灘のたこ焼は、まんまるで、ほんのり甘い。

「冬はピザでも焼きたいね」——去年の夏、浮上した思いつきにチャレンジすることに。

インターネットで調べて夫がピザ窯の設計図を描き、材料をそろえ、組み上げて……。近くの陶芸をしている友人のアドバイスをもらいながら、約半年後、ようやくピザが焼けるように。最初に焼いたピザは、感動のおいしさでした。

夫はものをつくるのが好きで凝り性だから、やり出すと止まりません。薪を調達したり、椅子やテーブルをつくったり、「休日も忙しい」と言いますが、どこか嬉しそうです。

「ピザを焼く」と言うと、「行きたい！」と反応する人が多くて、子どもたちの家族、中高時代の友人、会社の人など色々な人が集まつてくるようになりました。3kgくらいの小麦粉をこねて、ピザソースからつくり、何十枚も焼くんです。用事は増えるし、人は集まるし、まさかこんなことになるとは想像していませんでした。でも、みんなが楽しんでくれて、窯づくりや薪割りを手伝ってくれる友人が現れ、出会わなかつただらう人ともつながりができました。一番変化したのは、実はシャイでインドアタイプだった夫かもしません。



お兄ちゃんは弟の面倒をよくみてくれる。

天井からの光が気持ちいい  
明るく開放感があるリビング。  
遊びに来た子どもたちも  
のびのびリラックス。

ピザをとり出すパーラーも、  
テーブルや椅子もすべて手作り。



窯はまだ製作途中。モルタルを塗り上げたら、タイルなどを貼っておしゃれに仕上げたい。



## ピザ窯



生地とピザソースを下ごしらえ。  
この日は20人分の生地を用意。  
トッピングは参加者が持ち寄ることも。季節の野菜、  
照焼きチキン、アンチョビなど、いろんな味を楽しみます。



薪は、実家の山から切ってくる。  
山の手入れにもなるので、親に頼られている。

# 広がるピザの輪。 おいしく楽しい、 出会いの庭。

橋田 譲治さん  
美由希さん(土佐市)



2人目の子どもの出産を機に、2年前に新築しましたが、建築士さんがびっくりするくらい、わが家はモノが少ないんです。モノをなるだけ持たない、形や性能にこだわり、しかも安く買う、がわが家流。食器洗い機、IHヒーターなどネットで取り寄せ、トイレも自分たちで購入して大工さんに取り付けてもらいました。小さいものを買うときはあれこれ悩むくせに、大きな買い物はなぜか即決。家も車もそうでしたが、結果オーライ。失敗したと思ったことはありません。

1階は大きなリビングが1つで、中庭にウッドデッキを貼り、家中と外が一体になったつくりです。2階はロフトスペースと家族全員が一緒にやすむ寝室。この春、長男は中学生になりましたが、子ども部屋をつくりませんでした。個室にこもらず、家族みんなが何をしているかが見える暮らしをしたい。親は「こんな家にはよう住まん」と言いますが、夏は風が通り、冬は暖かです。

オープンな家の暮らし、ピザ窯に集まる人たち……家族と、友達と、食べて飲んでおしゃべりする時間が増えました。

(美由希さん談)



# あめんどくさんくまで、 あたりまえ

とさぶしアプリは、  
早く読める！

好きな場所で、好きな時に、とさぶしを読むことができます。  
バックナンバーが本棚に並び、本にはない機能を追加！もちろん全て無料です。

## ダウンロード方法

- ① とさぶしWEBサイトからApp StoreまたはGoogle Playのアプリダウンロードページへ
- ② App StoreまたはGoogle Playで「とさぶし」を検索  
<http://tosabushi.com/archive.html>



企画・アイデア大募集！

f とさぶし on facebook

とさぶしは、オープンな企画・編集を目指しています。企画案、取材記など、編集部の動きをfacebookでお知らせし、人気コーナー投票など、みなさんの意見を反映していきます。「いいね！」を押して、編集会議に参加ください。



読者プレゼント 各1名様に当たります！

## 「ぶしからの贈り物」

1.



歴史上の美男に萌え～  
西村謙写堂の偉人イケメングッズ

2.



気持ちがうんと伝わる  
ペーパーメッセージの紙ものセット

3.



蜂からのあま～いプレゼント  
高知の地蜜ハチミツ「百花蜜」

応募締切：2013年4月末／応募はWebサイト<http://tosabushi.com> Topページ「ぶしからの贈り物」から ※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

本の発行より  
3日早く  
リリース！！

